



Vol. 7

## 定点観察から見えてくるもの、見つけたいもの

広島自然観察会

和田 秀次



広島自然観察会は、自然を愛する心をはぐくみ、自然への理解を深めることを目的に活動を行っています。各地に赴いて自然を観察していますが、特に身近な自然の観察に力を入れています。中でも広島湾にそそぐ太田川とその流域は、観察場所としてとても重要であると考えています。毎月場所を変えて行う定例観察会や、同じ場所を一年を通じて観察する定点観察会を何度も行っています。

2008年度には、安佐北区の太田川河川敷を一年間5回にわたって観察しました。そこは丸石川原が広がる太田川中流で、増水時には浸かってしまう場所です。5月には、夏鳥のオオヨシキリや、留鳥のヒバリが鳴いていました。足下には動物の名前のついたイネ科の植物がみられました（ネズミムギ、カラスムギ、スズメノカタビラ、シナダレスズメガヤ、ヒロハウシノケグサ）。夏には水の中の生き物を捕まえて観察しました。何種類かの魚に混じって、テナガエビやモクズガニといったエビカニの仲間、水生昆虫もみられました。秋になるとヒガンバナやオギ、ススキといった植物が花をつけていました。

定点観察を続けて私たちが感じたことの一つは外来種（植物）がとても多いということです。イネ科のシナダレスズメガヤや、キク科のセイタカアワダチソウを始めとして、他にもムシトリナデシコやオオキンケイギク、ヘラオオバコなど、挙げればきりがありません。あの植物は何かと目立つ植物に近づいてみれば多くが外来種でした。シナダレスズメガヤやセイタカアワダチソウは、かなりの面積まとまって生えています。



その状況をみれば、あきらかに在来種の生える場所がなくなっていることがわかります。これらの外来種が今後どうなっていくのかは、とても関心をもっています。

太田川の豊かな自然を子供たちに伝えるためにも、私たちはこれからも観察を続けていきたいと思っています。